

企業訪問 循環型最前線レポート

(株) 紅久商店

リサイクル法 国認定業者として ハイテク工場への構築に向けて

(株) 紅久商店



株式会社 紅久商店

■代表者／三浦 圭吾

■所在地／豊橋市神野新田町チノ割12

TEL : (0532) 32-8888 FAX : (0532) 32-8283

江戸時代創業の金属リサイクル企業

創業は江戸時代。創業時は紅花商として頬紅や口紅の化粧品を製造・販売していました。

種子から油を採取し、残りカスは畑の肥料としてリサイクル、いまでいう地産地消の循環型社会の取り組みをしていたこととなります。



会社の歴史や金属リサイクルの取組について語る三浦代表取締役専務

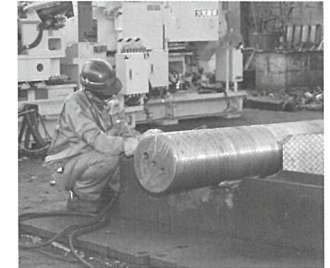
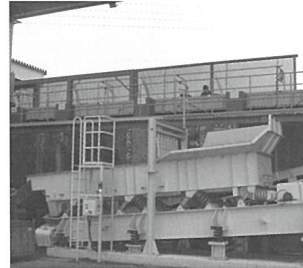
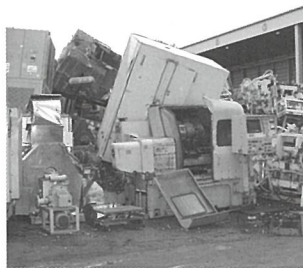
「紅久」という社名の由来について、代表取締役専務の三浦裕司氏にたずねると「江戸時代七代にわたり当主が『紅屋久兵衛』を襲名し、吉田藩御用達顔料等の販売を営んでいたことによります。現在でもその企業理念は受け継がれています。」と答えていただきました。

その後、明治35年金属リサイクル業に業種転換を行い今日に至っています。また、平成25年7月に47年ぶりに本社を豊橋市花中町から神野新田町の港工場に移転し、本社工場として業務を集約、リサイクル設備を充実させ、総合金属リサイクル業として確固たる経営基盤を築いています。

本社工場は敷地面積約6,600坪の広大なスペースに小型精密破碎機、非鉄選別機、振動フルイ選別機、手選別ラインなど最新設備が導入され、今後の廃棄物処理と適正処理、資源循環を見据えたさまざまな取り組みがされていました。

そのなかでも、廃棄物処理という厳しい業務を、作業者の怪我を少なく、最先端の技術を取り入れ効

率良く処理をする、作業工程のフローを重視した工場内の配置設計が目を引きました。他にも、各工程における重機・車両のスムーズな動きを考慮した作業スペースのレイアウト、見通しが良くヒヤリ・ハッ



愛知県内有数のリサイクル設備を備え、さまざまな金属廃棄物を再資源化する紅久商店

ト事故の未然防止につながる設計、天候に左右されない選別業務の確保等、広い敷地を余すことなく有効に使いこなしていました。

こうしたことから、『目を見張るハイテク工場』と新聞に取り上げられ、中学生の夏休み企業見学会で多数の訪問を受けるなど、評判は上々で社会教育の一端を担っています。

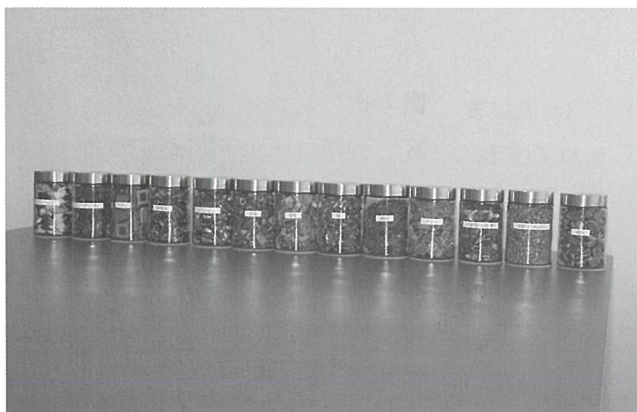
また、この同工場で特化した業務が「小型家電リサイクル法認定事業」です。2013年4月環境省より「小型家電リサイクル法」が施行、2013年6月に厳しい認定条件をクリアすることができ国内初の認定事業者を取得しています。国策である「小型家電リサイクル法」は社会全体に大きな効果を及ぼし、環境面では海外に流れる家電製品を阻止することができます。実は、家電は海外に流れたあとゴミとなって国内に戻ってくるため、海外に出ないようすることが求められています。また「小型家電リサイクル法」を遵守することは社会貢献に

つながり、シナジー効果を生み出し周囲に広がっていきます。

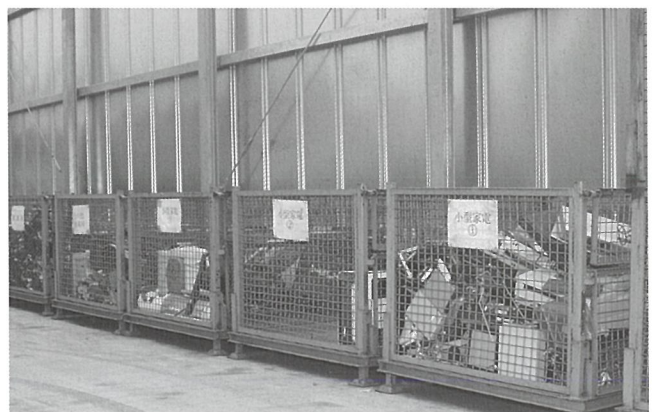
現在は同社の全工場に小型家電の受取置場を設置し、4種類に分別して置いていただくようにしているとのことです。

小型家電は多数品目がありますが、パソコンなど個人情報漏えいを懸念する方は、希望に応じて目の前で持参のパソコンを破砕するサービスも行い、廃棄物処理方法の明示など、一般の方へ歩み寄りの業務姿勢も新しい取組みのひとつです。

最後に、同社には今年8月に愛産協主催の『夏休み親子で環境・資源リサイクル体験ツアー』で14家族30名の親子が見学にきました。大きなクレーンで運ぶところから手作業での分別まで、家電の山積みから希少金属が得られるまでの流れを知り、参加者全員が捨てられたゴミから宝物が生まれる現場を目の当たりにしました。その感動が絵や作文で後日協会に届きました。



破砕・選別により13種類の金属にリサイクル



同社全工場の敷地内に小型家電リサイクルの置場を設置